幸田小学校の校舎増築計画

総務教育

11月13日　協議会開催

相見地区の市街化などによる児童数の増加で、平成29年に幸田小学校の教室不足が予想される。

Q 予想される児童数と必要な教室数は。

A 現在800人・28教室が、平成33年に1100人・35教室と予想。

Q 増築する校舎の場所と規模は。

A グラウンド北西部に、3階建の校舎を建設する。校舎の南面にバルコニーを配し、運動会など観覧できるスペースを確保。

幸田小学校増築校舎のイメージ図

消防指令業務の共同運用

岡崎市と消防指令業務の共同運用を検討している。

Q 町のメリットは。

A 施設整備費・運用費の低減、現場到着時間の短縮など。

Q 費用の低減効果は。

A 施設整備費3000万円減、指令業務の人員が6人から4人になる。

Q 今後の予定は。

A 平成27年11月に協定書を締結。平成30年4月から運用を開始する。

全国学力テスト1位の市を視察

10月28日から30日まで秋田県由利本荘市、岩手県胆沢郡金ケ崎町、花巻市を視察

■由利本荘市

全国学力テストで連続トップを続ける教育委員会の取り組みを視察。

教育委員会が、教育の基本理念・基本方針を策定し、国・県・市・学校・地域・家庭が連携し、学力向上に取り組んでいる。

教育現場では、テスト結果に対する授業改善が適切に実施されている。

■金ケ崎町

町民憲章の実現のため、5年前に教育振興基本計画を策定した。

「まちづくりは人づくり」を基本理念とし、施策の成果のための数値目標を設定。

審議会の女性割合30%や地域づくりの補助金制度に成果があった。

■花巻市

起業化支援センター

起業・創業支援のため、貸研究室、開放試験室、貸工場を有し、高水準で稼働。

専門分野を持つコーディネーターや岩手大学との連携が強みとなっている。

由利本荘市での視察研修

福祉産業建設

通学路交通安全プログラム策定

11月4日　協議会開催

策定されたプログラムに基づき、関係機関が連携し、通学路の安全を確保。

Q 通学路安全推進会議の開催は。

A 年1回、8月頃。

Q 学校から提出の危険箇所の数は。

A 平成24年度の緊急合同点検では、22カ所。

Q 公安委員会に、道路管理者からの働きかけは。

A 推進会議に警察署も加わっており、早期課題解決に結びつくことを期待。

児童館建設基本構想策定の中間報告

基本理念を「遊びが育てる子育て支援と地域交流の場」とし、新たに幸田・豊坂・坂崎小学校区に児童館を建設。

Q 駐車・駐輪場の確保を。

A 確保し安全対策を配慮。

Q 各施設名称は慎重に。

A 建設の段階で検討。

Q 既存児童館はどうする。

A 基本構想に改修の方向を盛り込む。

Q 中高生の居場所づくりの配慮を。

A 意識した計画の策定を考える。

高力地内の通学路

幸田・三ケ根駅前整備特別委員会

三ケ根駅前水路ボックス化

10月27日　協議会開催

三ケ根駅前水路計画

国道23号から深溝駐在所までの区間、62・5mをボックス化。

Q ボックス化する理由は。

A 有効的に土地利用ができる。

Q 工事時期は。

A 平成28年度の完成を目指す。

Q 豪雨時の降雨量に、十分対応できるのか。

A 下水道計画基準は1時間あたり50ミリ。上流部が4・5倍、下流部を1・8倍の安全率で計画。

幸田駅前広場等基本計画

①東西の駅前広場の設置。②駐車・駐輪場の分散配置。③自由通路の設置など整備計画を検討。

Q 駅東と駅西の間には、高低差があるが。

A 自由通路を設けることで、人、自転車の立体的な接続が図れる。

Q 駅前広場を一番早くすすめてほしい。

A ①②③は順番でなく、一体的な部分と考える。

Q 具体的な中味が必要。

A 年度末までに、詳細を図面にしていきたい。

整備が待たれる三ケ根駅前水路

新たに企業２社進出

地方創生特別委員会

野場松ノ本（デンソー西尾製作所の東）と桐山（桐山ＩＣ南）地区への進出企業が決まった。

今後、地元説明会と農地転用などの行政手続きがすすめられる。

Q 他の地区への優良企業の誘致方策は。

A 企業回り、幸田プレステージレクチャーズなど活用する。

Q 工場建設には、法規制のハードルが高い。

A 進出企業が決まらないと法規制は外せない。

企業進出が決まった野場松ノ本地区

10月26日　協議会開催

幸田町ひと・まち・しごと総合戦略の基本目標は。①仕事を育てる。②人の流れを育てる。③子どもを育てる。④地域を育てる。とし、各地域の児童館などを拠点とする住民交流、産業育成により地域発展を目指す方針。

豊根村との連携によるプラズマ技術応用事業は、先行型交付金が両町村に各5000万円に決定した。

空間情報科学など視察

11月17・18日　千葉県柏市、埼玉県和光市を視察

■東京大学柏キャンパス

空間情報科学の研究と情報の共有化が図られている。

地図上に、航空・衛星画像、社会統計、自然観測、人や物流、歴史まで、あらゆる情報をコンピュータで管理し、必要情報を加工し見える化している。

カーナビ、スマホ情報に応用され、地方自治体の防災・減災・救済対策にも利用されている。

今後は、衛星利用で人や車の移動情報や地域ボランティア活動による行政サポータなど幅広い展開が期待されている。

和光理研内の研究室

■和光理研インキュベーションプラザ（※）

平成27年度の入居企業は15社。上場会社も誕生させていた。

新たな事業展開を図る個人、ベンチャー企業などに家賃補助、経営相談から金融面まで支援している。

（※）インキュベーションとは、卵などがふ化（起業）すること

防災・減災対策特別委員会

名古屋大学 減災館を視察

11月2日 協議会開催

9月5日実施の幸田町総合防災訓練の結果

Q 煙体験は好評だった。今後の活用は。

A 各区での訓練でも体験してもらう。

Q 地区ごとの防災訓練は。

A 今までに11区が実施であり、未実施区にも依頼していく。

Q ボランティア受け入れ訓練は。

A 訓練内容などを関係団体と協議し、来年に向けて充実させたい。

11月20日、名古屋大学減災館を視察

減災館は、地下に免震装置を設置した建物で、災害時の対応拠点になっている。

減災連携研究センターは、南海トラフ巨大地震など、大規模災害に備えるため2010年10月に発足。自治体や産業界から受託研究員を派遣。本町も派遣している。

毎月講座を開催しており、「建築を支える土と土台」を研修した。

耐震対策を学ぶ

議会広報特別委員会

大和町視察で更なる研鑽

10月20・21日、東京都千代田区シェーンバッハ・サボーにて広報研修会。

10月22日、宮城県黒川郡大和町議会の広報視察をした。毎年全国優良広報紙として表彰を受けている。目ざすべき議会広報紙を発行されている。

発行の方針・理念は「広く町民に知っていただくために、読まれる広報紙を目ざし、町民の目線に立った紙面づくり、企画記事の編集を心掛けている」。

本町の議会だよりも理想をもって議会全体で取り組んでいかなければならない課題である。

視察研修した大和町役場

笹野康男議員表彰される

平成27年10月29日、愛知県町村議会議長会総会において、自治功労表彰が笹野康男議員に贈られました。

この表彰は、議員在職15年の長きにわたり、地方自治の振興に寄与された功績によるものです。